

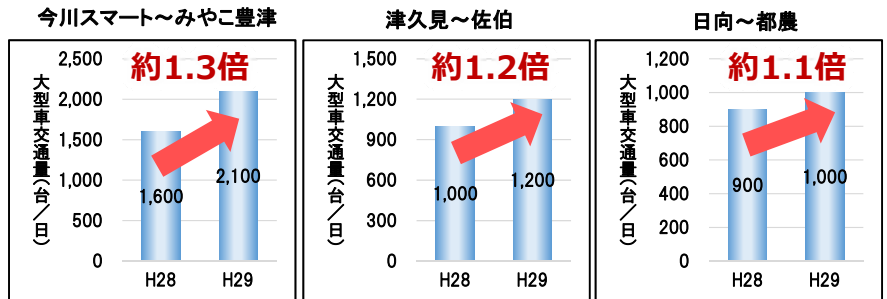
東九州道の開通で物流輸送ルートに変化

- 北九州市～宮崎市間の所要時間が約65分短縮し、輸送回数が約1.2倍に増加
- 大分県と宮崎県間の陸上アクセスが向上し、東九州道を利用したトラック輸送と海上輸送を組合せによる新たな物流輸送ルートが構築、カーフェリーの利用台数は約10%増加。
- トラックドライバーの拘束時間が年間約27万時間削減され、過労運転撲滅に貢献。

東九州道の開通による時間短縮効果と大型車交通量の変化

北九州市～宮崎市間の
陸上アクセスの向上

時間短縮効果
定時性の確保により **大型車交通量が増加！**



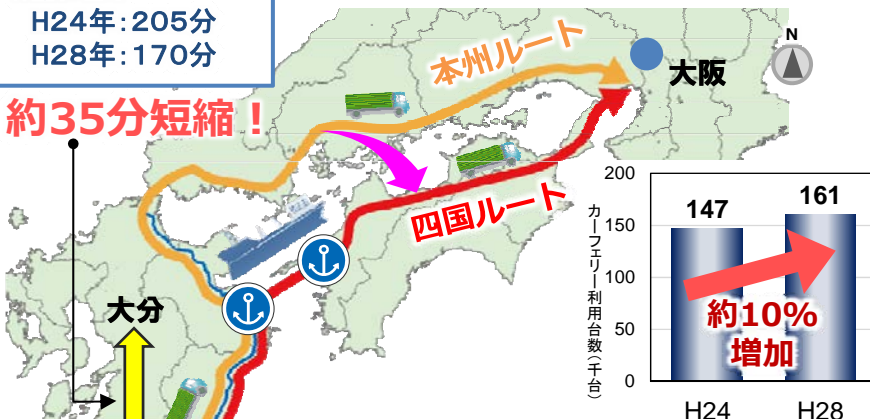
大分の物流事業者①の声
東九州道の開通で**輸送時間が短縮し、定時性が向上**しました。また、東九州道を利用し、**輸送回数が前に比べ約1.2倍**に増えています。

ヒアリング調査H29.1

東九州道とカーフェリーによる新たな輸送ルートを構築

大分市～宮崎市間の
所要時間
H24年：205分
H28年：170分
約35分短縮！

海上輸送を組み込んだ
四国ルートにシフト

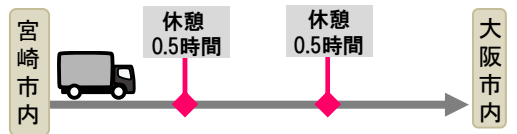


宮崎の物流事業者②の声
東九州道の開通や労働時間等の改善基準に伴い、**東九州道+カーフェリーの利用数が、開通前より週1～2倍**増加しています。開通前は拘束時間が長く、長時間労働となっていましたが、**新たな輸送経路を利用することで、ドライバーの労働環境が大幅に改善**しています。

ヒアリング調査 H28.11

○本州ルート（東九州道+山陽道）

全輸送時間 11.5時間



○四国ルート（東九州道+カーフェリー）

全輸送時間 10.5時間

**拘束時間
2.5時間減少**



※「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(H27.9より改正)により、
・フェリー乗船時間は「休憩時間」として取り扱われます。
・トラック運転者は4時間以内又は4時間経過直後に運転を中断して30分以上の休憩を確保することが定められています。

「東九州道利用のトラック輸送」と「海上輸送」の組合せにより

ドライバーの拘束時間を年間約27万時間削減

休憩時間 = 161,000台^{※1} × 68%^{※2} × 2.5時間^{※3}
= 273,700時間

※1 トラックのカーフェリー年間利用台数
※2 カーフェリー利用トラックの東九州道の利用割合
佐賀関港・臼杵港・佐伯港フェリー利用者アンケート調査結果
(H28.12、H29.2)
※3 カーフェリー乗船時間

**トラックドライバーの
労働環境を改善
(過労運転撲滅に貢献)**